

佳作

平和な空間、小さな感動

長野県 長野高等学校一年 清住 有里

私はこの夏休みに、とある温泉に行ってきた。その温泉は特別大きかったり、何か変わった面白いお風呂があるわけではありませんでしたが、建物全体が木できていて、なんとなく懐かしさを覚えるような、そんなところでした。

温泉につかっていると、心も体も安らいでいくものだと思います。私自身、とてもものんびりした気持ちになっていました。そうしている間に、私は思うことがありました。それは、「父や母が生まれた時代に、自分も生まれてみたかった。」ということでした。そんなことを思った理由として、こんなことが挙げられます。

最近の世の中は、人を殺してしまったり、不可解な行為をする人が沢山います。そのため、夜道を一人で歩くのも危ないし、場合によっては隣に住む住民までも警戒しなくてはならない、そんな世界へと変化してきたようです。これほど悲しいことがあるでしょうか。父や母に聞く話では、昔はそんなことは無かったと言っていました。人なんかよりよっぽどオバケの方が怖かったし、とにかく人を警戒したり、まちを歩くのにビクビクする必要など、ほとんど無かったですと聞きました。

温泉につかっていると、とても穏やかな気持ちになるので、「昔は毎日がこんなに穏やかだったのかもしれない。」と思い、そんな時代に生まれてきた人が、ものすごく羨ましく思えて仕方ありませんでした。しかし、この場所で私は、その「羨ましい」と思えるようなひとときを、充分に満喫することができたのです。

温泉に入っているときは、母と他愛無いような話をしながら、ゆっくりと安らいでいました。

母とは普段からよく話をするので最初は気付かなかったのですが、話している内容が、ものすごく「平和」を感じられる内容でした。ああ、温泉っていいなあ、なんて思いながらふと横を見ると、隣に居たちょうど私たちと同じくらいの親子が、空を見上げていました。

「星見たの久しぶりだなあ…。」と呟いていました。

逆の方を見てみると、小さな子どもたちが、楽しそうにわいわいと遊んでいました。その時私が居た空間は、まさに和気あいあいとしていて、平穏な空間でした。ああ、ここは星が見られるし、楽しくて遊べるのか。夜道では人を警戒して歩いているがために星一つ見ていられないなんて、もったいないなあと思いました。と同時に、人々が心から安らいだときには、こんなに素晴らしい笑顔や笑い声が聞こえてくるのかと、そこに小さな感動を見つけることができました。

世の中は今、とても便利な世界で、面白いゲームやテレビ番組が沢山あります。せっかく発達した世の中なのだから、少しくらいそれを楽しむのも悪くはないと思います。けれど、そればかりをやっていると、本来の人間の心を忘れてしまうのもよくないと思います。幼いころ、おにごっこをする、ケイドロをする、ただそれだけでも、ワクワクしたものだと思います。スリルもあって、体も沢山動かさせて、楽しくて。道具なんて何も必要じゃありませんでした。家で閉じこもって何かをしているよりもずっと輝いていると思います。

私は今も、まだまだ子供で、世の中がどうか言えるような人間ではないけれど、確実に言

えることは、あの温泉でのあのひとときは、一番平和で、一番温かくて、一番人間らしい、そんな時間だったということです。実際にそれを体感しました。幼いころ好きだったのは家でのゲームよりおにごっこで、少なくとも私はそうでした。あの温泉での時間は、私にそんなことも思い出させてくれました。

幸せのかたちは人それぞれだとよく言うけれど、夜道に警戒して歩くよりは星を見たほうが幸せだし、幼いころのようなワクワクドキドキを、もう一度味わいたい人も少なくないと思います。小さな感動、幸せが育っていたあの場所のように、いつか世界全体が温泉のような温もり溢れる世界になればいいと、そう思いました。心のゆたかさを忘れないように、というよりも、
“忘れたくない”と感じました。

普段の生活の中にも小さな幸せは沢山あるのだと思います。その幸せをどこから見つけ、どうやったら広げることができるのか、考えてみようと思えました。以上のことが、夏休みに私が見つけた、小さな感動です。